第２回 国土形成計画シンポジウム

首都圏の目指すべき方向を探る

～首都圏の国際競争力と人口4千万人の暮らしを支える国土基盤形成戦略～

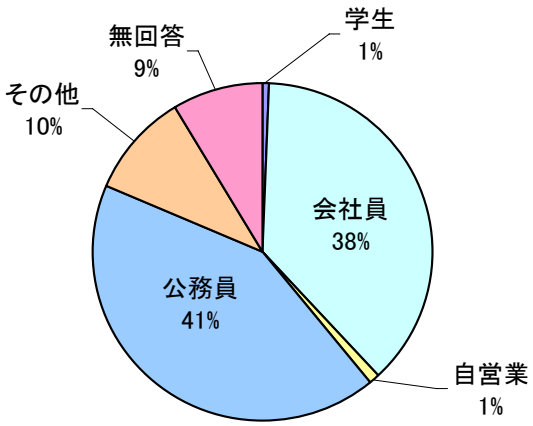
アンケート集計結果

【アンケートの回収件数】　　199件

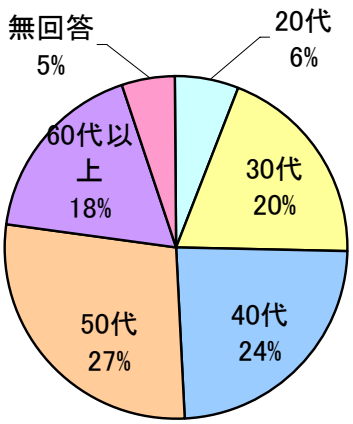
【回答者の属性】

- 職業では、会社員・公務員ともに約4割を占める
- 年齢では、40代～50代が半数を占める
- 性別では、男性が7割弱を占める
- 居住地では、東京都が3割弱で、埼玉県・神奈川県がともに約2割を占める

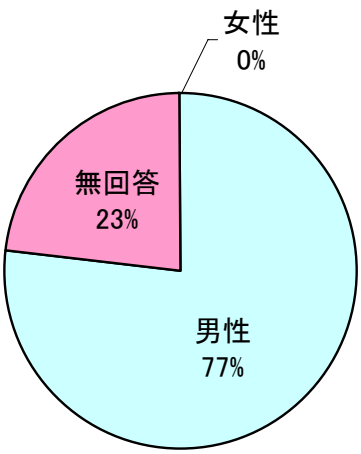
■職業



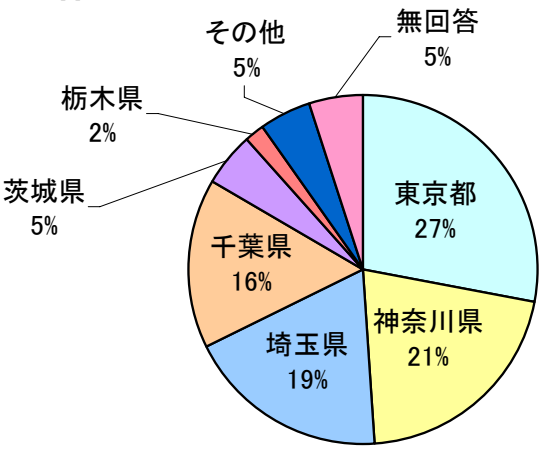
■年齢



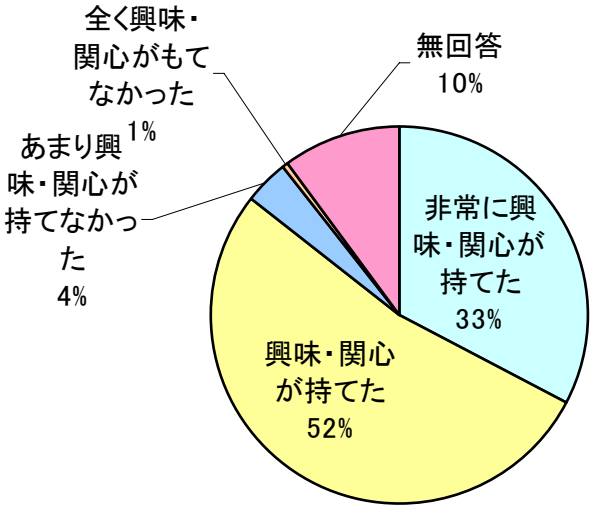
■性別



■居住地



首都圏広域地方計画についての興味・関心度



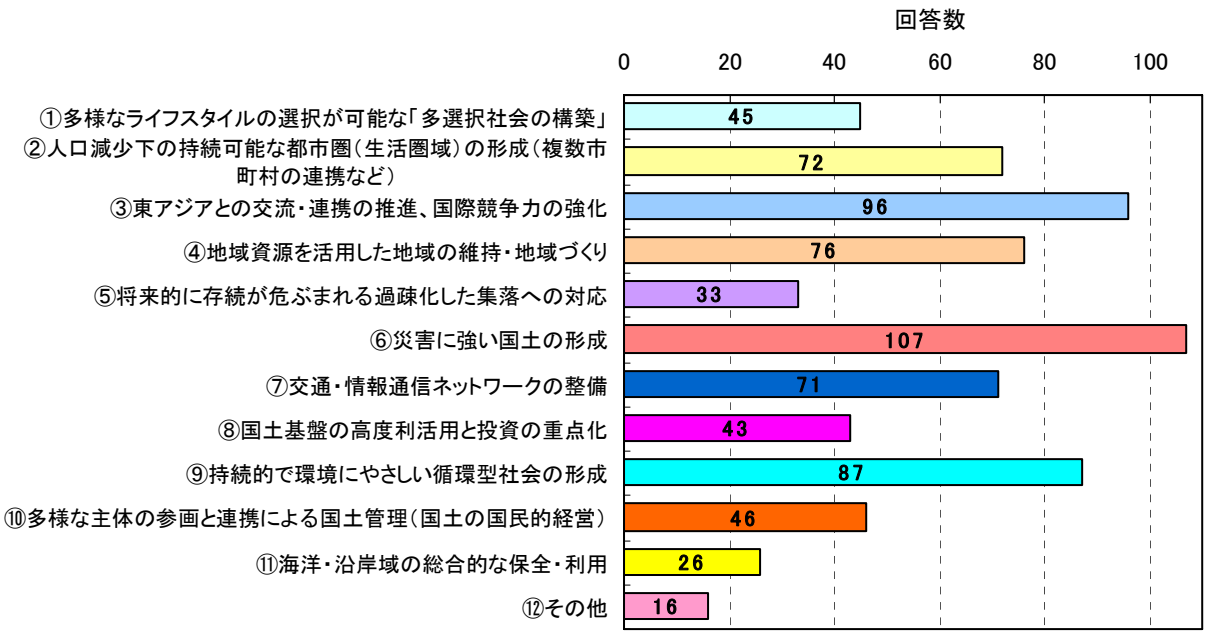
基調講演の感想

- 様々なデータ、例を挙げた講演であり、首都圏の目指すべき方向について考えるきっかけとなった。
- 国土形成計画の策定にあたり、広い視野をもち、多くの切り口をもつことが大切である。地域の個性を大事にすることが必要であると考える。
- マクロな視点の重要性や現状開発の理念の無さなど、共感できるとともに、考えさせられる内容で、非常に興味深かった。
- それぞれの都市が独自性を発揮し全体の総合力を高める。大変勉強になりました。
- 自分の地域をグローバルな視点から見られたことは有意義だった。
- 首都圏の持つべき自覚と責任に痛感しており、共感を覚えました。
- 「新たな公」の形成には誰がリードすればいいのか？新しい時代のリード役の出現が望まれる。昔の「公共」の意義の復活が循環型社会には必要だろう。
- 上海と比較することで、日本国土を見直すと今までの視点の狭さに頭を殴られたような印象を受けました。各自にバラバラでもそれをサヤエンドウのように覆うことでブランド化する発想はすばらしい韓国の河川を復活させた例等の発表は、日本海構想に役立つかと思います。
- 首都圏域だけでなく、北陸・東北圏との連携と交流を考慮した広域連携の視点、さらには東アジアとの国際的な連携が重要な視点であることを感じた。

パネルディスカッションの感想

- 意見が様々あり、1つの計画に結びつける難しさを感じた。お互いの調整がテーマだと思う。
- 交流（国際、地域間）について、また様々な事例を知れて安全、安心、サバイバル能力等、今後の業務の一助となった。
- 地域同士、または地域と都市の協力が必要と感じました。
- 首都圏の重要性をあらためて認識させていただいた。
- 首都圏を取り巻く状況がわかった。新しい視点で計画作りが重要ではないか。
- 多岐にわたる項目に触れ、内容豊富、ユニークな発想もきけて有意義。
- グローバルの中、日本における首都圏の役割、今後について参考になった。
- 非常に良かった。広い視点での話と具体例を入れられて、理解しやすかった。

首都圏の将来像を考えるうえで特に重要だと感じるテーマ（複数回答）



その他の回答内容

- 都市と地方のパートナーシップ
- 新たな「公」についての共通理解
- 高齢化に対応した街づくりの推進
- 科学技術（立国）の強化、農林水産業の維持、温暖化対策
- 市民参画及び市民の意識向上
- 太平洋と日本海軸の人と水・物の大交流社会基盤整備
- 市民参画及び市民の意識向上
- エネルギー利用の低減化、水資源の確保、治安
- 自然環境の保全と再成、活用
- 国際化を前提とした道路交通ネットワークの形成
- 日本及び日本人のアイデンティティを重視した国土の形成

その他、ご意見等

- 今回の計画のポイントは民間視点（主導）のものを具体的に書き込むことかと思うが、それを聞く体制、仕組み作りを整備すべきである。
- これから、連携することが必要と感じました。とてもいい講演でした。
- 国民的関心を喚起させる多様な取り組みが必要と感じる。
- 首都圏、特に東京圏は、食料、空気、エネルギーなど人材も含め、地方に依存していることをもっと意識すべきと考えます。
- 少子高齢化に向けて、お子様にとって安心安全、高齢者にとって活動しやすい国土をお願いいたします。
- それぞれの地域の活性化を住民と自治体が考えて作り上げる問題提起をもった形成計画を作れたら。